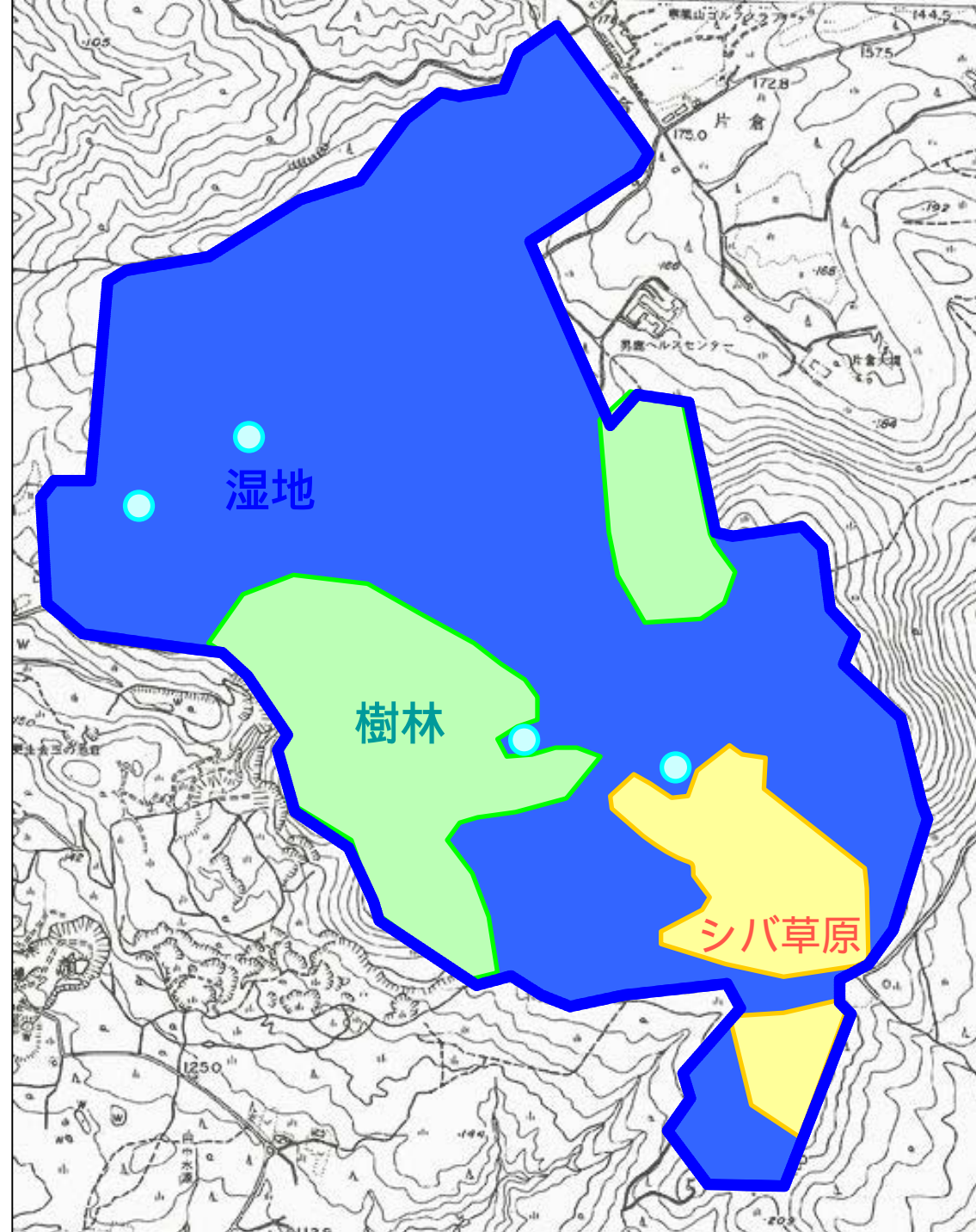




### 3. 寒風山に生育する植物



# 寒風山の地勢





## 寒風山の植物を覚えましょう

このあとのページは写真集になっています

それぞれの植物写真には「植物名」と「科名」のうしろに や×のシンボルがついています

花の咲いている時期の見つけやすさで区分しています

- : たくさんあるか、または目立つので簡単に見つかる
- : 比較的に見つけやすい
- : やや少なく見つけにくい
- × : 非常に少なく目立たないので簡単には見つからない

なおこの基準は、あくまでも津田の個人的見解によるものです

# 草原の植物（春）



アズマギク（キク科）



オキナグサ（キンポウゲ科）×



ニオイタチツボスミレ（スミレ科）



センボンヤリ（キク科）

どの種も比較的背丈が低く、  
シバ型の草原に多い傾向がある

# 草原の植物（初夏Ⅰ）



カンボク（スイカズラ科）

樹林あるいは低木林の中にも  
比較的きれいな花をつける植物が見られる



カマツカ（バラ科）



ハマナス（バラ科）

# 草原の植物（初夏Ⅱ）



ツレサギソウ（ラン科）×



クロバナロウゲ（バラ科）



コウヤワラビ  
（イワデンダ科）

小規模な湿地に見られる植物

# 草原の植物（初夏Ⅲ）



ウマノアシガタ（キンポウゲ科）



コウゾリナ（キク科）



ノハナショウブ  
（アヤメ科）



ニガナ  
（キク科）



ノアザミ  
（キク科）

この時期に草原に見られる黄色の花の植物はちょっと似ていて区別が付きにくい



# 草原の植物（盛夏Ⅰ）



オニユリ（ユリ科）



ヤマユリ（ユリ科）



カキラン（ラン科）



ネジバナ（ラン科）



ヒメヤブラン（ユリ科）

ユリ科やラン科の植物の多くは盛夏に咲く

# 草原の植物（盛夏Ⅱ）



ウツボグサ（シソ科）



ヤナギタンポポ  
（キク科）



オオナンバンギセル  
（ハマウツボ科）



スズサイコ  
（ガガイモ科）



イブキボウフウ（セリ科）

# 草原の植物（盛夏Ⅲ）



クサレダマ  
(サクラソウ科)



ヌマトラノオ  
(サクラソウ科)



ハクサンフウロ  
(フウロソウ科)



オカトラノオ  
(サクラソウ科)



オトギリソウ  
(オトギリソウ科)

# 草原の植物（晩夏・秋Ⅰ）



カワラナデシコ（ナデシコ科）



シラヤマギク（キク科）



ヤマハギ  
（マメ科）



カセンソウ  
（キク科）

# 草原の植物（晩夏・秋Ⅱ）



オミナエシ（オミナエシ科）



オトコエシ（オミナエシ科）



ユウガギク  
（キク科）



ノコンギク  
（キク科）

いつの季節でも，よく似た紛らわしい植物が生育している

# 草原の植物（晩夏・秋 III）



アキノキリンソウ  
（キク科）



エゾリンドウ  
（リンドウ科）



センブリ  
（キキョウ科）



ウメバチソウ  
（ユキノシタ科）



ツリガネニンジン  
（キキョウ科）



オオノアザミ（キク科）

# 寒風山には絶滅危惧種が生育しています



オキナグサ (キンポウゲ科) ×  
秋田県RDB絶滅危惧IB  
国RDB絶滅危惧II



スズサイコ (ガガイモ科)  
秋田県RDB留意種  
国RDB準絶滅危惧



オトギリソウ  
(オトギリソウ科)  
秋田県RDB絶滅危惧II



カキラン (ラン科)  
秋田県RDB準絶滅危惧



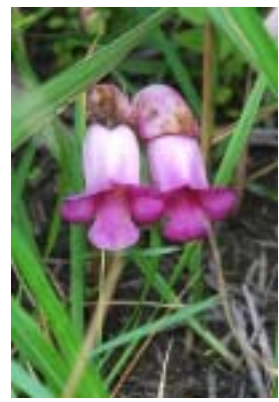
ハクサンフウロ  
(フウロソウ科)  
秋田県RDB準絶滅危惧



クロバナロウゲ (バラ科)  
秋田県RDB絶滅危惧II



ツレサギソウ (ラン科) ×  
秋田県RDB絶滅危惧IB



オオナンバンギセル  
(ハマウツボ科)  
秋田県RDB準絶滅危惧



アズマギク (キク科)  
秋田県RDB準絶滅危惧

寒風山には多くの絶滅危惧種が見られる

しかも、それらのほとんどは **草原生の植物** です

このことからだけでも、いかに草原生態系が重要であるかがわかります

生物多様性を確保するためには

寒風山に良い状態の草原生態系を残していかなくてはなりません

適切な管理をつづける必要があります  
(山焼き, 草刈りなど)

ところが寒風山には、  
ひとつの重大な問題が発生しています

**外来種が蔓延っています**



# 寒風山の多様性



## 日本の草原は

プレーリー(北米), ステップ(中央アジア), サバンナ(アフリカ)などの外国の大草原とは異なり, 気候条件(おもに降水量)に依存して成立している自然の草原ではない

## 半自然草原と呼ばれ

草刈り, 火入れ, 放牧などの管理をおこなうことによって維持されている

管理を中断すれば, 草原はヤブから**森林へと遷移する**

「秋田県の」とか, 「男鹿半島の」とか, 「寒風山の」多様性を維持するためには寒風山に草原を残していく必要がある

最重要課題は, **寒風山の草原を確保すること**

	刈り取りの特徴	山焼きの特徴
実施時期	夏季	春季
植生への影響	中	弱
仕事量やコスト	大	小

**刈り取り**または**山焼き**によって**草原の維持**を図る必要がありますが, どちらを選ぶかは地域ごとの事情があるので, 地元できちんと議論してください

肝心なのは, **管理作業を続けていくこと**

# 草原は放置すると森林になる

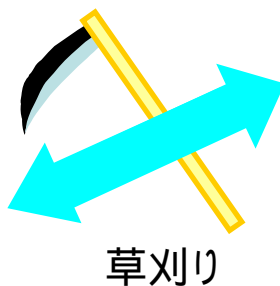
樹木の稚樹や低木  
が侵入し始める



放棄後さらに時間が経てば  
森林化していく

## 多様度の低下

森林生の種が増えるのではなく  
草原生の種が減るだけ



草刈り

管理放棄

生育時期に刈り取られるので  
ススキは小さくなる

小さな植物が出やすくなる

枯れ草が  
やや減る



山焼きは休眠期におこなわれるので  
ススキなどには影響しない

小さな植物はたくさん出るよ  
うになる

枯れ草はほとんど無くなり、  
炭が供給される



火入れ



# 寒風山の草原を維持する

最重要課題：「草原を維持する」ことで草原生の植物が生きられる場所を確保する

その次の課題：草原生の植物がたくさん生育できる草原(多様性の高い草原)を作る

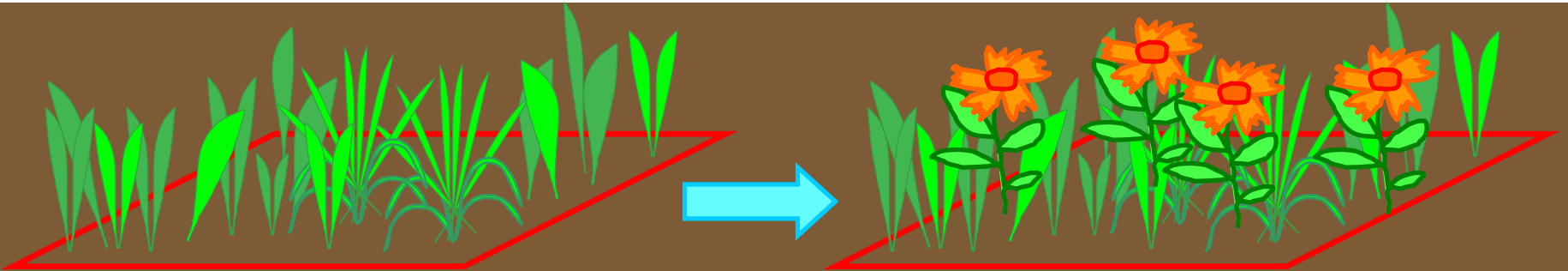
多様性確保のために寒風山の草原を確保するために山焼きや刈り取りを実施していく

山焼きと刈り取りのどちらが多様性の高い草原を作り出せるかは今のところわかっていない

とにかく寒風山では草原を維持することが肝心なのですが、  
ここで「外来種の侵入」という新たな問題が・・・

寒風山にはすでに何種類かの外来種が侵入しています

寒風山の周辺には外来種がたくさん生息しているので種子は簡単に持ち込まれる  
外来種には明るい場所を好む種類が多いので、草原は格好のすみかとなる



多様な種が生息することが重要なのだが、外来種が増えて多様になるのは困りもの

# 外来種の生態系への影響

外来生物が在来種を補食すると本来の生態系のバランスが崩れる

外来植物が蔓延ると在来植物の生息場所がなくなる

外来生物が在来種と同じ餌を必要とすると競争関係に陥る

外来生物が近縁の在来種と雑種を作ると遺伝的な独自性が失われる

有毒の外来生物により人が傷つけられる

農作物などの食害

よく知られているのは

アライグマ, ヌートリア, カミツキガメ,  
オオクチバス, カダヤシ, セアカゴケグモ,  
セイヨウオオマルハナバチ, アレチウリ など

## 特定外来生物

**特定外来生物** 海外起源の外来生物であって, 生態系, 人の生命・身体, 農林水産業への被害を及ぼすもの, または及ぼす恐れあるものの中から指定される

輸入, 飼育・栽培・保管, 移動・運搬・譲渡, 遺棄・放流・播種などは禁止されている

**要注意外来生物** 規制がかかる生物ではないが, 取り扱いに注意が必要

# 外来種の襲撃

寒風山です



ハナショウブがたくさん咲いている草原にオオキンケイギクのコロニーが

# 寒風山の 特定外来生物

## オオキンケイギク



頂上直下の遊歩道脇にはすでにかなりの数のオオキンケイギクが侵入している

観光客の中には

「さすが寒風山、綺麗な野草がたくさん咲いている」

と考える人も少なからずいるかも知れない

# 要注意外来生物



ヒメジオン



キシウブ



オオマツヨイグサ



ヘラオオバコ



ブタナ



カモガヤ

# これまでに確認されている寒風山の外来種(植物)

## 特定外来生物

写真で紹介

オオキンケイギク

## 要注意外来生物

カモガヤ, キショウブ, オオマツヨイグサ, ニセアカシア, メマツヨイグサ,  
ヘラオオバコ, ブタナ, ヒメジョオン, オオアワダチソウ, ハルザキヤマガラシ

## その他の外来生物

キバナノマツバニンジン, ビロードモウズイカ, ムラサキツメクサ, イチョウ  
ヒメオドリコソウ, マーガレット(フランスギク)

もちろん駆除した方がいいに決まっていますが, きちんとしてしまうとちょっと面倒です

オオキンケイギク(特定外来生物)だと, 駆除するにも大臣の確認や認定が必要です

特定外来生物以外の外来種(要注意外来生物を含む)ですと, 国定公園の管理者である秋田県から植物採集許可を受けなければなりません



# 寒風山の外来種

寒風山生態系研究会は許可を取って植物標本を採集しています  
外来種も含まれていますが、決して「駆除」しているわけではありません

オオキンケイギク



ハルザキヤマガラシ



オオマツヨイグサ



ピロードモウズイカ



キショウブ

特定外来生物に指定されているオオキンケイギクは早急に駆除した方がよい